

マルチスポーツのすすめ 一子供たちの豊かなスポーツライフの土台づくりー

令和8年3月

第 1 章 はじめに

本資料は、子供たちのスポーツ振興に携わる皆さまを想定読者として作成しております

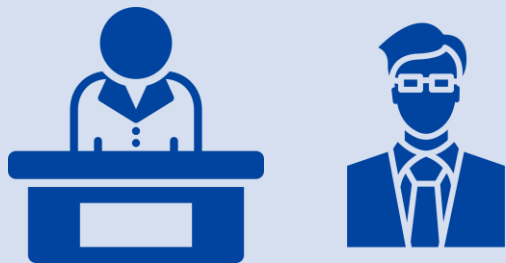
想定読者

- ・ 本事業において国内におけるマルチスポーツの在り方や普及方策について、有識者等が議論を行い、関係団体に効果の検証を行ってもらう事で明らかになった事をまとめており、地域で子供たちのスポーツ振興に携わる様々な主体の皆さまにご関心を持っていただけるよう、作成しております
- ・ 特に、子供たちのスポーツ実施を応援されている自治体の皆さま、また実際に子供たち向けスポーツプログラム・イベントを実施されている地域の皆さまにお読みいただき、各地域でのマルチスポーツ実施に役立てていただきたいです

主な想定読者

想定読者① | 自治体の教育・スポーツ担当の皆さま

- ・ 自治体の教育委員会やスポーツ振興部局等で、子供たちのスポーツ振興に取り組まれている皆さま（子供たちのスポーツ振興だけに限らず、スポーツ基本計画等の策定に携わられている方も含む）



想定読者② | スポーツ団体等の皆さま

- ・ 総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、体育・スポーツ協会、民間スポーツクラブ等、マルチスポーツの担い手となり得る事業者の皆さま（特に、それぞれの組織の中でスポーツプログラムの企画に携わっている皆さま）



目次

目次

- 1 章～ 2 章では、マルチスポーツの基本的な考え方や、子供たちがマルチスポーツを体験することの意義を紹介している
- 3 章以降は、事業者の皆さまがマルチスポーツを提供する際の情報提供しており、3 章ではまずマルチスポーツプログラムを新たに提供する際のポイントを紹介している
- 続く 4 章では、既にマルチスポーツを提供している事業者の取り組みを事例集として紹介しており、付録ではマルチスポーツプログラムを提供する際に事業者の皆さまがご活用いただける広報ツールを提供している

1 章	はじめに	P. 2
2 章	マルチスポーツが広げる可能性	P. 8
3 章	マルチスポーツプログラム提供のイロハ	P.14
4 章	事例集	P.25
付録	マルチスポーツプログラムを実施する際の広報ツール	別添

子供たちがずっとスポーツを豊かに楽しむ。その土台を形づくるのが、マルチスポーツ

定義

- マルチスポーツとは、年間を通じて単一種目のみを行うのではなく、複数の種目を経験することを通じ、様々な動作を行うこと

基本的な考え方

マルチスポーツは、子供たちが生涯にわたりスポーツを豊かに楽しむ『土台』をつくるための手段

スポーツを豊かに楽しむための「土台」	マルチスポーツを通じて実現できること
1 バランスよく運動能力を高めること	▶ いろいろな動きを体験することを通じて、基礎的な運動能力等を身につけられること ▶ 一つの種目だけに取り組むことの弊害として発生し得る怪我等を防ぐことができること
2 スポーツを「好き」になること	▶ いろいろな種目に気軽に取り組む中で、「できる」ようになる体験をたくさん積むことができること ▶ いろいろな種目を体験しながら、より「好き」な種目を見つけられること ▶ ジュニア期を通じ、「好き」な種目を子供たちのニーズに応じて体験していけること

実施形態について、本事業では「セット型」と「ビュッフェ型」の2類型で整理

種類

- マルチスポーツの中でも様々な種類が存在する。特に大きな分類としては、事業者の皆さまが決めた種目を体験する「セット型」と、関心のある種目を毎回子供たちが選んで参加する「ビュッフェ型」と整理した。

マルチスポーツの種類

概要

イメージ



【コラム】海外におけるマルチスポーツの取り組み

海外事例

- 下表で紹介しているニュージーランドやスペイン（バスク州）をはじめ、既に様々な国・地域でマルチスポーツの取り組みが行われている

海外におけるマルチスポーツの取り組み概要

類型	国（地域）	概要
学校部活動によるシーズン制	ニュージーランド	- ニュージーランドでは、<u>学校部活動が夏・冬のシーズン制であり、季節によって異なる種目に取り組む</u>形となっている - また、同国における主要スポーツ競技団体、及びSport New Zealand（スポーツを統括する政府認定組織）が連携して、マルチスポーツ等を推し進めるBalance is Betterイニシアチブを立ち上げている
行政/地域クラブによる年間プログラム	スペイン（バスク州）	<u>バスク州ではマルチスポーツ環境が州教育法の中でプログラム化</u>されている - このうちギプスコア県では、<u>小学生がアフタースクールのマルチスポーツプログラムに参加しなければ、スポーツクラブの活動に参加できない仕組み</u>になっている - 結果として、ギプスコア県では小学生の70%がこのマルチスポーツプログラムに参加している

出所）スポーツ庁「令和 6 年度 地域における子供たちの多様なスポーツ機会創出支援事業 事業成果報告書」

第2章 マルチスポーツが広げる可能性

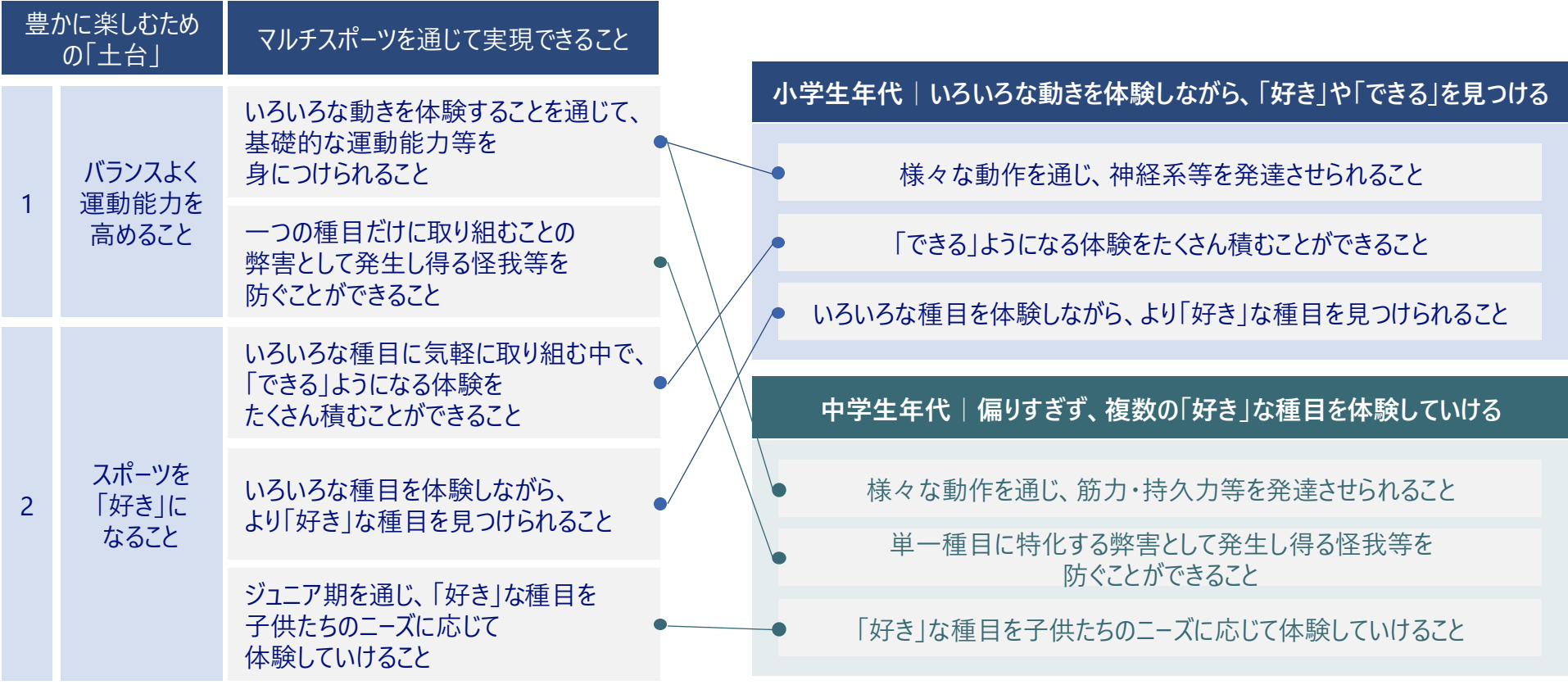
マルチスポーツで実現できることは、各年代によって様々に存在する

マルチスポーツで実現できること

- マルチスポーツを通じて実現できることは前述のとおり様々存在しているが、特に小学生年代／中学生年代でマルチスポーツの位置づけは異なる

【再掲】マルチスポーツで実現できること

特に各年代において、マルチスポーツで実現できること



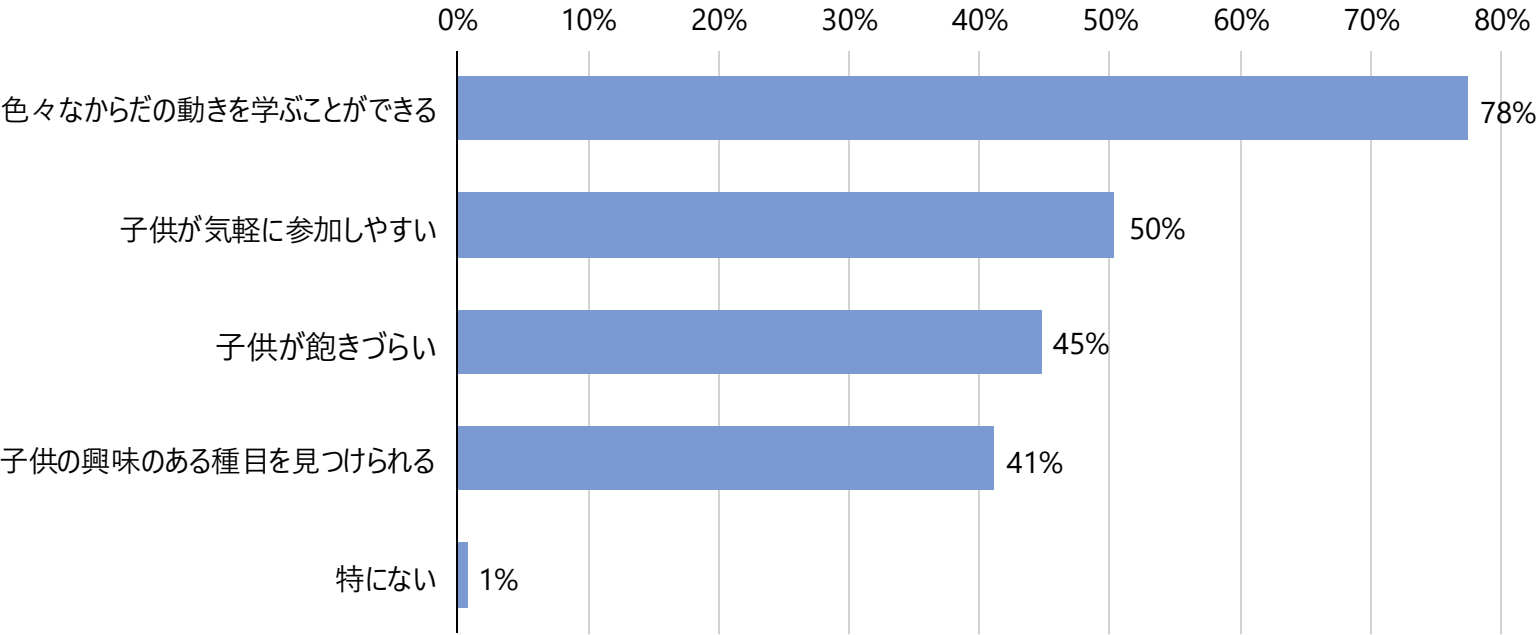
体験イベントを通じ、多くの保護者がマルチスポーツで実現できることを実感している

調査結果

- 令和7年度「地域における子供たちの多様なスポーツ機会創出支援事業」（マルチスポーツ環境の構築）（以降、本事業と表記）では、ミズノと連携し、小学生以下の子供たちにマルチスポーツを体験いただけるイベントを開催した
- 本イベントにおいて、参加者の保護者向けにアンケートを実施したところ、マルチスポーツの様々な効果を実感いただけた

体験イベント参加者の保護者向け | 保護者が体験イベントを通じて実感したマルチスポーツの効果（N=107）

- 海外の研究結果では、複数の種目（活動）に取り組むことには以下のような効果があると言われています。以下のうち、本日の活動を通じて実感したものがあればすべてお答えください。（複数回答）



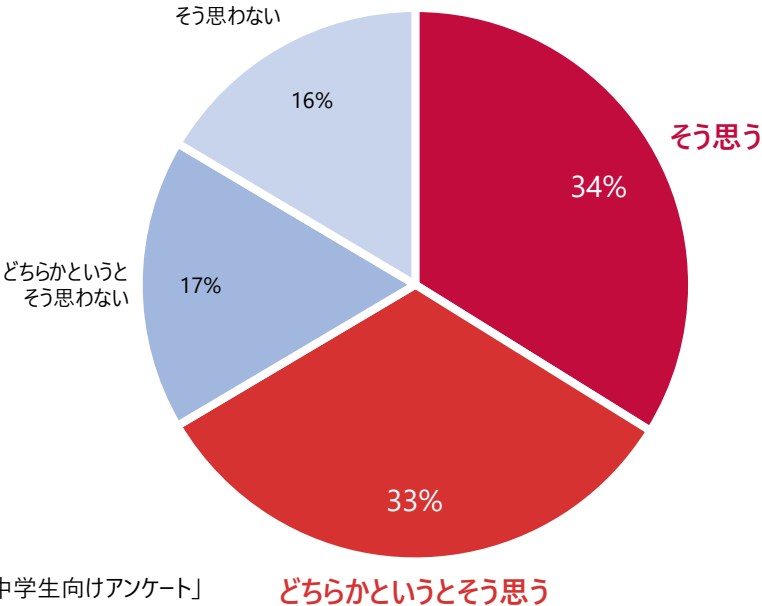
また子供たち自身も、マルチスポーツに対する興味・関心を持っている

調査結果

- ・ スポーツ庁が令和 4 年度に全国の中学生約10万人に実施した調査では、中学生の約67パーセントがいろいろな興味を経験してみたいと考えているという結果が出ており、マルチスポーツに対する興味・関心の高さが明らかになっている
- ・ また、本事業で実施した複数の小学生向けマルチスポーツイベントで、参加者の保護者向けに実施したヒアリング・アンケートでは、保護者が定期的なマルチスポーツプログラムに子供たちを参加させたいと考えている割合は高いことが明らかになった

中学生向け | マルチスポーツに対する興味・関心（N=95,336）

- ・ 1つの競技だけでなく、いろいろな競技を経験してみたいと思いますか？
注）部活動だけでなく、学校以外の地域のスポーツクラブなどで経験する場合も含めて教えてください。



出所）スポーツ庁「令和 4 年度大会の在り方に関する中学生向けアンケート」

一部の事業者は、子供たちの未来のため、マルチスポーツに取り組み始めている

コメント

マルチスポーツを先行的に推し進めている皆さまも、子供たちが生涯にわたりスポーツを豊かに楽しむ『土台』をつくる思いで取り組んでいる。本事業の一環で実施した「マルチスポーツ子供みらい会議」での発言から、こうした皆さまの思いを以下で紹介する

マルチスポーツを先行的に推し進める皆さまのコメント ※マルチスポーツ子供みらい会議でのご発言より抜粋

ミズノ 高原氏



ミズノでは、子供たちがさまざまなスポーツを体験する中で、「**自分の好き、得意が見つかることが重要な出発点**」であると考えています。また、「**それが見つかる体験価値っていうものが新しい価値**」であり、マルチスポーツを通じて、子供たちが自分に合ったスポーツと出会い、楽しみながら続けられる機会づくりに取り組んでいます。こうした取り組みを通じて、「**日本の中のスポーツの実施率を上げたい、スポーツ好きを増やしたい**」という思いのもと、スポーツに親しむ子どもたちを増やしていくことを目指しています。

元気！わどまりクラブ
浅野氏



浅野氏は、離島地域では競技や指導者が限られる中で、「**選択肢を増やしたい**」という思いからマルチスポーツに取り組んでいると語った。また、「**この世代こそいろいろ試してみて、自分に何が合うのか**」を知る機会が重要であり、一度選んだ競技にとらわれるのではなく、多様なスポーツに触れられる環境づくりが必要だと述べた。さらに、「**まずはやれる環境を作るっていうのは最初のステップとしてはとても大事**」とし、地域での実践の重要性を強調した。

筑波大学
大山氏



大山氏は、マルチスポーツについて「**自分で決めさせるっていうことがマルチスポーツの効果、ベネフィットである**」と述べ、子供が主体的に選択する経験の重要性を指摘した。また、海外のシーズン制スポーツ環境を例に挙げながら、「**その子たちが人生の選択肢、するスポーツの出会う時間を作るために、そういったシステムを作ってる**」と説明した。さらに、「**マルチスポーツは結構大人が忍耐力のいる政策になる**」と語り、子どもの内発的な動機や成長を信じて待つことも、大人の重要な役割であるとの考えを示した。

【コラム】トップアスリートの子供時代のマルチスポーツ経験

調査結果

- 「トップアスリートを目指すために幼少期から専門種目に専念させる」という考え方が存在するが、実際にトップアスリートとして活躍している／していた人は、幼少児期に多様なスポーツを経験してきた
- 山梨大学 中村学長をはじめとする研究チームが、日本トップリーグ連携機構（JTL）と共に、同機構に加盟するボール競技のトップリーグで活躍する／していたトップアスリートを対象に実施した調査では、小学4年生までに2種目以上の運動・スポーツを経験していた割合は、約59パーセントに上ることが明らかになった

幼児期・児童期（小4まで）における、運動・スポーツ経験（n=1,150）



出所）一般社団法人日本トップリーグ連携機構、中村和彦、篠原俊明、長野康平、堀内亮輔
「トップアスリートにおける過去の遊び・運動・スポーツ経験の調査についての報告－マルチスポーツ、性差の特徴－」

第3章 マルチスポーツプログラム提供のイロハ

【再掲】実施形態について、本事業では「セット型」と「ビュッフェ型」の2類型で整理

種類

マルチスポーツの中でも様々な種類が存在する。特に大きな分類としては、事業者の皆さまが決めた種目を体験する「セット型」と、関心のある種目を都度子供たちが選んで参加する「ビュッフェ型」と整理した

マルチスポーツの種類

概要

イメージ

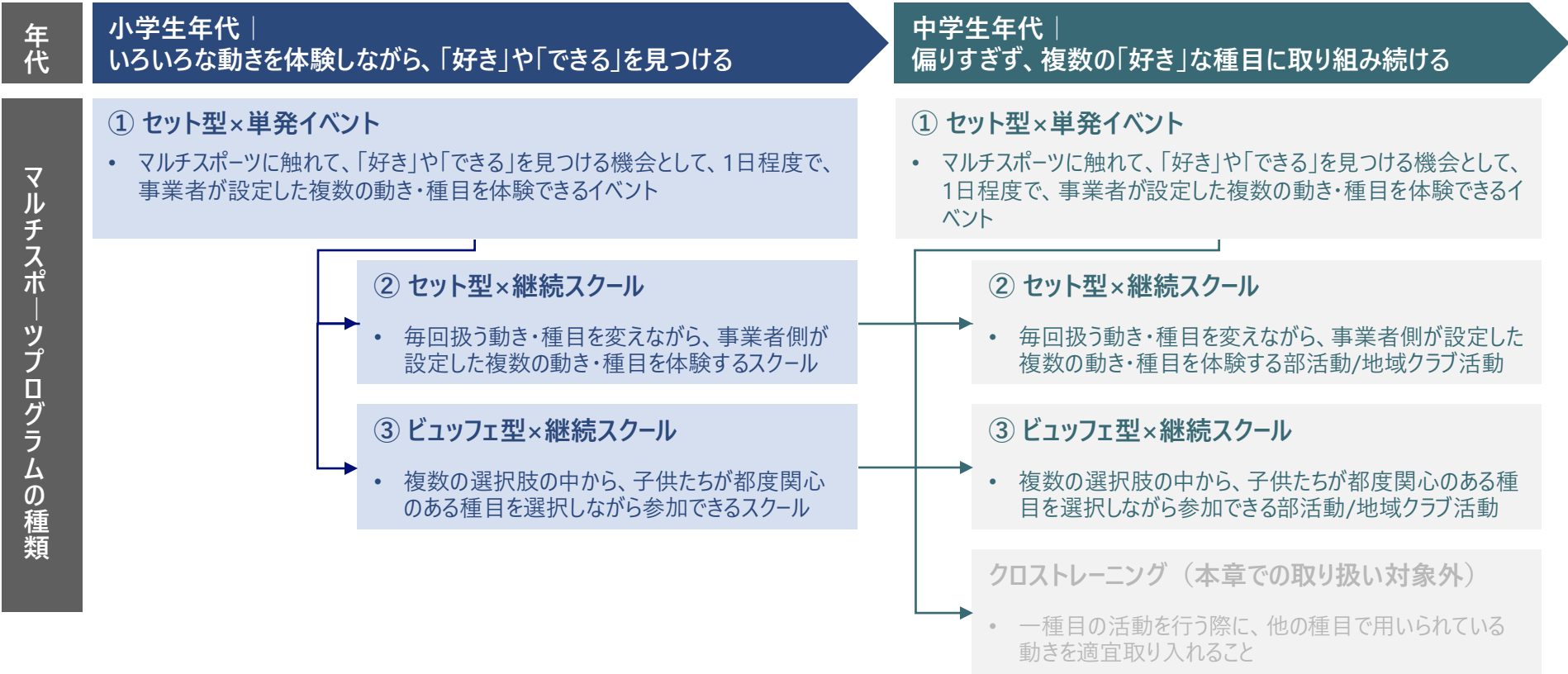


各年代のマルチスポーツの位置づけに応じ、多様なプログラムの種類が存在している

種類

- 小学生年代／中学生年代でマルチスポーツの位置づけは異なり、対応するマルチスポーツプログラムの種類も異なる。なお、以下はプログラム（指導者あり）を前提としているが、公園にマルチスポーツ向きの遊具を置く等も、マルチスポーツを広げる案としては考えられる

マルチスポーツプログラムの種類（年代別）



これらの多様なプログラムにおいて、企画・運営における主なポイントは以下のとおり

企画・運営のポイント

- マルチスポーツプログラムを企画・運営するにあたっては、内部体制の構築からプログラムの設計・場所等の確保に至るまで、適宜他の団体と連携したり、マルチスポーツプログラムを先行的に企画・運営する団体の取り組みを参照したりすることが期待される

項目		ポイント
内部体制の構築	事務局 (P.18)	- マルチスポーツプログラムに必要な人材等を集められるネットワークを有する体制の構築 - 子供たちのニーズを都度収集するための体制構築
	指導体制 (P.19)	- 専門指導者の確保や、指導ノウハウの連携に向けた、競技団体等との連携 - 用具の活用などによる、専門指導者/ノウハウ不在でも多種目を子供たちが体験できる環境整備
プログラムの設計 (P.20)		- 子供の発達・発育に関する学術研究の知見を踏まえたプログラムの設計（大学等との連携） - 子供たちのニーズを踏まえたプログラム設計
日程・場所の確保 (P.21)		- 他のスポーツプログラム・体験活動の日程との兼ね合いを勘案したプログラム日程の設定 - 行政や指定管理者等との連携による、継続的に多種目の活動を実施できる場所の確保
用具の確保 (P.22)		- 競技団体等との連携による、用具の確保 - 多種目を実施する上で必要になる様々な用具について、OB/OGの使っていた用具等の再利用
参加者への広報 (P.23)		- 行政（教育委員会）等との連携による、学校経由等での広報の実施 - 各年代の保護者・子供たちニーズに応じた、広報におけるメッセージの工夫
運営資金の確保 (P.24)		スポンサー収益等の確保（ユニフォームスポンサー等）

企画・運営におけるポイント | 内部体制の構築 事務局

企画・運営のポイント

- マルチスポーツプログラムを企画・運営するにあたっては、いろいろな団体を巻き込みながら、ニーズを都度収集できるための体制を整える必要がある

マルチスポーツプログラムに必要な人材等を集められるネットワークを有する体制の構築

子供たちのニーズを都度収集するための体制構築

対象

(全種類共通*)

(全種類共通)

詳細

- マルチスポーツプログラムを企画・運営する場合、指導者をはじめ、全てを自前で確保することは多くの場合困難であり、下表のように様々な団体との連携が必要となる
(行政、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、競技団体、大学、民間企業等が、相互に強みを生かし合える体制が重要)
- このため、マルチスポーツに取り組む主体は、上記にあげたような団体を適宜巻き込みながら、マルチスポーツプログラムを企画・運営することが重要である

本事業で実施した実証における連携の例
(長崎県スポーツ協会の場合)

事務局	県スポーツ協会
指導者	実施種目の競技団体
場所	民間企業等
参加者広報	自治体 (教育委員会)

- マルチスポーツプログラムを企画・運営する上では、マルチスポーツの基本的な考え方に照らして、子供たちのニーズを汲み取りながら実施することが重要である。そのため、どのようなプログラムであるかに関わらず、適宜アンケート等を実施しながら、より子供たちのニーズに沿ったプログラムを実施できる体制を整えることが重要である
- 特に、子供たちが都度参加する種目を選択できるビュッフェ型の活動においては、「子供たちが次回どの活動に参加したいか」を事前に取りまとめ、指導者等に連携する必要があるため、その人員・工数を確保する必要がある

*全種類共通：前々頁に記載しているマルチスポーツプログラムの種類（セット型/ビュッフェ型、単発/継続）によらず共通しているポイントであることを示す。以降も同様

企画・運営におけるポイント | 内部体制の構築__指導体制

企画・運営のポイント

- 専門人材を確保できることが当然ながら望ましいが、特に単発イベントにおいては、必ずしも専門人材を確保しなくても、安全面に留意しつつ（工夫を施した）用具を置くだけで、子供たちにマルチスポーツを体験してもらうことが可能である

専門指導者の確保や、指導ノウハウの連携に向けた、
競技団体等との連携

用具の活用などによる、専門指導者/ノウハウ不在でも
多種目を子供たちが体験できる環境整備

対象

(全種類共通)

① セット型×単発イベント

詳細

- 前述のとおり、総合型地域スポーツクラブや行政等でマルチスポーツプログラムを企画・運営する場合、子供たちのニーズに応じた種目設定をする上で、**全ての種目の専門指導者を自前で確保することは多くの場合困難である**
- 他方、競技団体は各種目の専門指導者や指導ノウハウを豊富に有しており、かつマルチスポーツが将来的な各種目実施人口を増やすことに寄与することを理解してもらえば、**マルチスポーツ実施主体と競技団体等の連携は可能となる**
- そのため、マルチスポーツの意義を競技団体等に伝えたくうえで、**協力を仰ぐことが重要である**

- 本事業で実施した、マルチスポーツを広げるための実証で、**陸上教室の会場に他種目を体験できるコーナーを設置したところ、陸上に興味を持ってイベントに来た子供が、他種目を次々と体験した**
- また、事例集で紹介しているミズノの事例では、子供たちが安全に、かつ**各年代の身体能力に応じたスポーツの楽しみ方ができるよう、オリジナルの用具を開発し、専門指導者不在でも各種目を楽しめる環境を整備したところ、多くの子供たちが体験に訪れた**
- こうした**用具の工夫による指導体制の代替は、専門的な指導の必要性が薄い初期段階において特に有効である**

本事業で実施した実証の様子
(NPO法人 虹) →



企画・運営におけるポイント | プログラムの設計

企画・運営のポイント

- プログラムを設計する上では、マルチスポーツが実現し得る「バランスよく運動能力を高めること」「スポーツを『好き』になること」「仲間と協力して行える事」につながるようなものとする事ができると望ましい

子供の発達・発育に関する学術研究の知見を踏まえた
プログラムの設計（大学等との連携）

子供たちのニーズを踏まえたプログラム設計

対象

（全種類共通）

（全種類共通）

詳細

- 子供たちの発達・発育状況に応じて、特に身につけやすい能力は様々であり、こうした違いを踏まえながらプログラムを設計することが、バランスよく運動能力を高めることにとって重要である
- 現時点では、マルチスポーツにおける標準的なプログラムは確立されていないため、こうした観点を踏まえつつ、以下のような学術研究を参照したり、大学等と連携したりしながら、子供たちの発達・発育に適したプログラムを提供することが望まれる

幼少期に身につけたい36の動作

体のバランスを取る動き	たつ、おきる、まわる、くむ、わたる、ぶらさがる、さかだちする、のる、うく
体を移動する動き	あるく、はしる、はねる、すべる、とぶ、のぼる、くぐる、はう、およぐ
用具を操作する動き・力試しの動き	もつ、ささえる、はこぶ、おす、おさえる、こぐ、つかむ、あてる、とる、わたす、つむ、ほる、ふる、なげる、うつ、ける、ひく、たおす

出所）スポーツ庁 子供の運動習慣アップ支援事業 成果物「運動あそびBOOK」

※同資料には、36の動作を身につけることにつながる様々な運動あそびが紹介されている

- マルチスポーツは、スポーツを「好き」になってもらい、子供たちが生涯にわたりスポーツを豊かに楽しむ『土台』をつくるための手段である
- そのため、子供たちの声を定期的に収集し、得手・不得手によらず、マルチスポーツを楽しめるプログラム設計を行うことが非常に重要である
- 一例として、中学生向けにマルチスポーツの地域クラブ活動を行っているケースでは、各回の活動種目や時間配分について、活動中の子供たちの様子を見ながら都度変更している
- また、幅広い年代にマルチスポーツプログラムを提供する場合、各年代の成長過程に応じたスポーツの楽しみ方ができるよう、実施内容を工夫することが重要である
（実際の種目より簡単にする／面白く感じてもらいやすい部分のみ切り出して体験してもらう、等）

企画・運営におけるポイント | 日程・場所の確保

企画・運営のポイント

- 日程設定においては、学校や他の習い事とのスケジュールを勘案することが重要である。
また場所については、継続的に多種目を行いやすい場所の確保が基本だが、単発イベントでは集客目的で商業施設等の活用も考えられる

他のスポーツプログラム・体験活動の日程との兼ね合いを勘案した
プログラム日程の設定

行政や指定管理者等との連携による、
継続的に多種目の活動を実施できる場所の確保

対象

(全種類共通)

②・③ (継続スクール)

詳細

- 子供たちに参加してもらいやすいよう、子供たちの活動スケジュールに配慮してプログラムの日程設定を行うことが重要である
 - 本事業に協力した団体の事例でも、地域のスポーツ少年団が活動しない日程で実施したところ、他の回の2倍近くの人数が参加し、普段単一種目しか実施しない子供たちの参加につながった例があった。また、学校の終業時刻を踏まえたプログラム開始時刻を設定することで、マルチスポーツプログラムの集客につながった例が出ている
 - 特にマルチスポーツプログラムの立ち上げ初期は必ずしも人が集まるとは限らないため、子供たちが参加しやすいタイミングを把握することが肝要となる
- マルチスポーツプログラムを実施する際の場所確保は、いろいろな種目の実施を想定した場所の確保が求められるため、単一種目の活動を実施する以上の困難が伴い得る
 - 特に単発イベントではなく、子供たちのニーズを踏まえながら継続的にマルチスポーツプログラムを実施する場合、都度種目にあった会場を確保するための調整を行おうとすると、苦戦が予想される
 - こうした場合、行政や指定管理者等と連携しながら、多種目を実施しやすい場所（例：体育館／多目的グラウンド）を主な活動場所として継続的に確保することが望ましい
（場所を所与として、プログラムを設計することが現実的である）
 - なお、特に必ずしもスポーツに興味・関心がない層にマルチスポーツへ関心を持ってもらうことが目的となる場合は、商業施設等でも実施することも一案である。他方、通常の体育館／多目的グラウンド開催と比較して調整工数がかかるため、単発イベントでの実施が現実的である

企画・運営におけるポイント | 用具の確保

企画・運営のポイント

- 多種目を実施する場合、必要となる用具もその分多岐にわたる。そのため、競技団体等との連携や、OB/OGの用具再利用等、様々な工夫を施しながらその費用負担を軽減することが重要である

競技団体等との連携による、用具の確保

多種目を実施する上で必要になる様々な用具について、OB/OGの使っていた用具等の再利用

対象

(全種類共通)

②・③ (継続スクール)

詳細

- マルチスポーツプログラムを実施する上で、**都度様々な種目に必要な用具を実施主体が購入すると、単一種目のみのプログラムを実施する場合に比べて、大きな費用がかかってしまうことが想定される**
- そして、会場備品があれば都度活用することは前提としても、マイナースポーツの用具や、ジュニア期に適した用具等は会場に備え付けられていない場合が考えられる
- こうした場合には、マルチスポーツの意義を競技団体等に伝えうえで、用具の貸与の協力を仰ぐことが重要となる
- その際、安全面に十分に留意することが必要である。

- 種目ごとに、実施主体として購入する用具だけでなく、継続的な活動では各世帯で購入することが多い用具も存在する(グローブ、ラケット等)
- こうした用具の購入費用も、単一種目のみのプログラムを実施する場合に比べて大きな費用がかかってしまうことが想定される
- そのため、**単一種目のみのプログラム以上に、OB/OGが使っていた用具等の再利用を促す等、世帯における用具費用の負担を減らす工夫を行うことが重要となる**

企画・運営におけるポイント | 参加者への広報

企画・運営のポイント

- 各年代の保護者・子供たちに効果的なメッセージは異なることを踏まえ、適切な対象層に効果的なメッセージを、可能であれば教育委員会と連携して配布することができると、効果的な広報が実現し得る

行政（教育委員会）等との連携による、
学校経由等での広報の実施

各年代の保護者・子供たちニーズに応じた、
広報におけるメッセージの工夫

対象

（全種類共通）

（全種類共通）

詳細

- 特に新規でマルチスポーツプログラムを立ち上げる場合、マルチスポーツ自体や、そのプログラム自体の認知度を高めるためには、幅広く子供たちに訴求できる方法での広報・周知が重要となる
- この点では、教育委員会と連携して学校等で周知を図ることが、集客において効果的な手段の一つであることが見えてきている。そのため、行政等との連携が可能な場合には、行政に依頼し、学校経由での広報周知を行うことが望ましい
- このほか、既に単一種目に取り組み始めている子供たち向けに広報するのであれば、地域のスポーツプログラムを運営している団体（例：スポーツ少年団）に、マルチスポーツの意義を伝えたいので協力を行うこと等が考えられる

- マルチスポーツを通じて実現できることは、各年代や子供たちのニーズにより様々なため、マルチスポーツプログラムの参加者層を想定した上で、その層に応じたメッセージを発出することが求められている
- なお、本事業における調査では、幼少期やスポーツにまだ本格的に親しんでいない層には、「好き」「得意」を見つけること、スポーツに既に本格的に取り組んでいる層には、スキル向上を訴求することが効果的と示唆されている
- 上記を基に、各団体で活用できるチラシ案を別添で用意しているので、適宜活用いただきたい

企画・運営におけるポイント | 運営資金の確保

企画・運営のポイント

- ・ 先行団体の取り組みを参照しながら、様々な収益確保の可能性を探ることが重要である

スポンサー収益等の確保（ユニフォームスポンサー等）

対象 (全種類共通)

詳細

- ・ 運営資金は、参加者からの費用のみで賄う方法や、自治体から一定の補助を得て実施する方法のほかにもいくつか考えられる。特に、マルチスポーツの意義浸透が、参加者や自治体等で十分に共有されていない段階では、必ずしも参加費や自治体からの補助で賄えるとは限らない
- ・ そのため、例えば活動自体にスポンサーを募る試みをはじめ、以下のように多岐にわたる方策で収益確保に努めることが期待される
- ・ 実際、事例集で紹介している総合型地域スポーツクラブSafilvaの事例では、クラブとして（活動時のユニフォームのロゴ掲載や、企業とのコラボ企画等のメニューを示しながら）多数のスポンサー企業を獲得する等、参加費だけに頼らない事業モデルを確立。結果として、月会費100円でのマルチスポーツスクール運営を実現している

考えられる収入（例）

マルチスポーツプログラム参加収入	参加者のデータ利活用	補助金・助成金
その他スポーツプログラム収入	他事業収益（物販等）	スポンサー収入
法人向けプログラム収入		

第4章 事例集

事例集 | 目次

目次					
#	種別	団体名	提供プログラムの類型		ページ
①	総合型地域スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ Safilva	セット型	ビュッフェ型	P.27
②	民間事業者	ミズノ（MISPO!）	セット型	ビュッフェ型	P.30
③	スポーツ少年団	江南市スポーツ少年団	セット型	ビュッフェ型	P.33
④	自治体	大阪府豊中市	セット型	ビュッフェ型	P.36
⑤	自治体	新潟県佐渡市	セット型	ビュッフェ型	P.39

①総合型地域スポーツクラブSafilva(1/3)

幼児

小学校
低学年小学校
高学年

中学生以上



提供主体の概要

主体の種類 総合型地域スポーツクラブ

所在地 北海道札幌市

設立年 2013年

総会員数 約400名

主な事業

- ・ フットサル等のスポーツチームの運営
- ・ 幼児～小学生向けのスポーツ教室の企画・運営
- ・ パラスポーツの推進
- ・ 高齢者向けの健康支援

特徴

- ・ もともとスポーツ教室の運営や部活動の地域展開支援等を行っており、保護者の「いろいろなスポーツをやらせてみたい」というニーズに応える形でマルチスポーツ教室を開始
- ・ パートナー（スポンサー企業）からの支援により、月会費100円のマルチスポーツスクールを実現
- ・ LINEを利用した独自の予約受付システムを確立し、保護者の利便性向上と運営効率化に寄与

プログラムの概要

実施内容	毎週、参加したい曜日・種目を子供たち自身が選択し、その種目について試合形式を含む練習を行う。詳細なプログラム内容は種目により異なる
種目	フットサル、サッカー、ドッジボール、バドミントン、ハンドボール、テニス、陸上、バレーボール、運動ベース、バスケットボール、パルクール、忍者
対象	幼児～小学6年生
在籍数	約150名
指導者	Safilvaの職員＋外部委託の指導者（計約10名）
実施頻度・日時	平日夕方＋土日
会場	札幌市内・白老町内の公共施設・学校体育施設等
参加費	月会費100円 ※別途、年度会費、保険料、登録料、Tシャツ代が必要
参加方法	公式LINEより登録のうえ、参加したい種目を予約

①総合型地域スポーツクラブSafilva(2/3)

広報イメージ

POINT

多様な会場・曜日の枠を設定することで、より多くの子供が通いやすい

お近くの会場で、
最高のスポーツ体験を。

月 菊水元町地区センター 16:10-16:50 / 幼児クラス 16:10-16:50 / 小学生クラス	火 ちえりあ 4F体育室 18:10-18:50 / 幼児クラス 18:50-19:40 / 小学生クラス
水 札幌スポーツ＆メディカル 専門学校 2Fスタジオ 18:00-19:00 / 小学生クラス	木 商工会議所付属南門学校 3F 体育館 17:30-18:20 / 幼児～小学生
金 三角山小学校 16:00-16:40 / 専従～小学生	週末 流動的 会場・時間は週毎に変わります

POINT

子供がお小遣いで通える「月100円の会費」を、「子供の自立を育む設計」として訴求

子供の自立を育む100円。
費用のご案内

月会費は100円。

子供連自身から会費を支払ってもらいます。
100円の会費には、大きな意義を。
どの競技に何回出て、月額100円です。

年会会費	1人	: 5,500円
保険料	1人	: 2,000円
登録料	1人	: 1,500円
ウェア ※Tシャツ	110～160	: 4,000円
	S～XL	: 4,500円

100円の体験を、スマホから今すぐ。



マルチスクールは、全てLINEのシステムを利用しています。
キャンセル待ち、入会申込は下記よりLINE上にてお願いします。



POINT

LINEでの登録ステップを明示し、参加へのハードルを極力下げる

①総合型地域スポーツクラブSafilva(3/3)

工夫点

運営・体制の工夫

POINT 1 スポンサー企業からの支援を受けつつ、自主事業も展開

スポンサー（パートナー）企業からの支援で会場費や人件費を賄うことにより、月額100円の会費を実現。この会費設定が、結果的に行政や地域との連携にもつながっている。

企業向けの健康経営支援やアパレルといった自主事業も展開し、スポンサー頼りの経営とならないポートフォリオを構築している。

POINT 2 独自開発のLINEシステムにより、運営の効率化を実現

当初はGoogleフォームで予約管理等を行っていたが、パートナー企業の協力で、LINEを利用した予約システムを独自に開発。応募状況の確認やキャンセル待ちの連絡に係る時間を大幅に短縮した。



子供の『好き』と『得意』を、
ここで見つけられる。

POINT 1 「スポーツを楽しむ」指導を徹底

「各競技の専門性を持った指導者が、その競技の楽しさを全力で伝える」ことにこだわっており、熱意ある指導者が在籍している。毎回のクラスで必ず試合形式のゲームを実施し、そのスポーツの面白さを体感できるよう工夫している。

POINT 2 子供たちが自分で通える環境づくり

100円の月会費設定のほか、学校施設等の通いやすい会場の確保により、子供たち自身の意思で参加しやすい環境を形成している。家庭環境によるスポーツ体験格差の是正をねらいとしている。

【参加者の声】



小学生

- ・ スクールのおかげで、やってみたい競技が増えた
- ・ 楽しいからいろんな種類のスポーツをやりたい

- ・ スクールを通じて、興味のある競技が見つかった
- ・ 100円という金額設定がありがたい



保護者

参加促進の工夫

②ミズノ(MISPO!)(1/3)

幼児

小学校
低学年小学校
高学年

中学生以上



特徴

- ・ スポーツで子供の心身を健やかに育むことを目的に、保護者の声や専門家の知見を取り入れながら、多種目のスポーツ体験ができるスクールプログラムを開発
- ・ 独自開発の用具も使いながら、幼少期に身に付けたい「36の動き」を経験できる点が特徴
- ・ 関東（東京・埼玉）、関西（大阪・京都）、福岡にスクールを展開

プログラムの概要

実施内容	10種類のスポーツを週替わりで体験し、幼少期に身に付けたい「36の動き」を各プログラムの中で習得する
種目	卓球、柔道、テニス、野球、タグラグビー、サッカー、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ヘキサスロン
対象	年長児～小学3年生
在籍数	約200名
指導者	独自の専門研修を受講したたMISPO！コーチ（計約30人）
実施頻度・日時	平日夕方、土曜午前
会場	ミズノグループの指定管理施設
参加費	月会費9,900円～11,000円 ※別途入会金16,500円が必要
参加方法	各会場の体験会に参加後、本登録

提供主体の概要

主体の種類	民間事業者
所在地	大阪府大阪市／東京都千代田区
設立年	1906年
従業員数	約3,649名 ※（2025年3月31日現在）
主な事業	・ スポーツ施設の管理運営（PPP・PFI、直営店舗） ・ スポーツスクールの運営 ・ 運動プログラムの企画・開発・販売 ・ スポーツイベントの企画・運営 ・ フットサル施設等の土地活用

②ミズノ(MISPO!)(2/3)

広報イメージ

POINT

保護者に多い悩みと教室の特長を対比させ、マルチスポーツのメリットを訴求

POINT

保護者が気になる「子供の教室での様子」や「成長の記録」の共有をアピール

こんなことを感じていませんか？



その想い、MISPO!に
お任せください！！

新たな
挑戦
ができる

運動不足
の解消

好きが
みつかる



ココロとカラダの成長を
ていねいに観察しながら
進めています！



子どもたちが楽しかったことや
お友達の間違ったことを書き出す
毎回の振り返りシート

プレイヤーダーが間近で感じた
子どもたちの
日々の成長の記録



普段見過しがちな
子どもの成長の兆しを
見逃しません！



②ミズノ(MISPO!)(3/3)

工夫点

運営・体制の工夫

POINT 1 自社・グループ会社のリソースを活用

スポーツ用品メーカーとしての実績を活かし、活動に必要な用具はすべてスクール側で準備。一部は子供の身体能力に合わせた独自開発の用具であり、子供たちが楽しみながら身体能力を高められるよう工夫されている

活動場所として、自社が指定管理を行っている社会体育施設を利用しており、安定的な場所の確保が実現できている

POINT 2 プログラム開発や運営に専門家の意見を反映

コンセプト立案やプログラム開発には、小学校体育の学習指導要領の策定等の知見をもつ山梨大学の中村和彦学長が協力
子供たちや保護者とのコミュニケーション面では、学校現場で子供たちと接している小学校の校長先生や、発達障がい児童への接し方に詳しい大学有識者の助言を取り入れた



MISPO!独自開発の遊具で遊ぶ子供たち

参加促進の工夫

POINT 1 さまざまな動きを遊びながら習得できる

幼少期から身に付けたい基本動作を体験できるプログラムで、楽しみながらバランスよく身体能力を向上させられる

独自の研修を経た専任コーチが担当。単に運動のコツを教えるのではなく、子供たちが自分で考え、子供たち同士で話し合うきっかけを提供している。

POINT 2 子供の成長を可視化し、保護者に共有

毎回のプログラム後には子供たち自身で振り返りシートを書き、自分ができたことや友達のよかったところへの気づきを促す

振り返りシートの内容やプレイリーダーの気づきは、年2回の個人面談を通じて保護者に共有される

【参加者等の声】



単一スポーツよりも「できた」の経験が多く、自信とチャレンジ精神が身につきます
(アスリート)

いろんな体験がみんなとできて貴重な時間を過ごせたようです。性格も明るくポジティブになってきた気がして嬉しいです
(保護者)



③江南市スポーツ少年団(1/3)

幼児

小学校
低学年小学校
高学年

中学生以上

特徴

- ・ 小学校区ごとに分かれた10の単位団から組織された、60年の歴史をもつスポーツ少年団。
- ・ 20年以上前から「複数種目型」の活動を実施しており、総合的な身体能力の育成や生涯スポーツの基礎の形成に寄与している。
- ・ 大人も含めた地域集団の形成を目指しており、児童の保護者が運営や指導を担っている。

プログラムの概要

実施内容	野球+サッカー+ 駅伝／バレーボール+バドミントン+ 駅伝のいずれかを選択し、各単位団のスケジュールに合わせて3種類のスポーツに取り組む。
種目	野球、サッカー、バレーボール、バドミントン、駅伝
対象	小学1～6年生
参加者数	約400名 ※すべての団員が複数種目に取り組む
指導者	指導者約〇〇名、スタッフ約XX名
実施頻度・日時	土日祝
会場	各単位団の区域の小学校
参加費	月会費500～1,000円程度（単位団ごとに異なる）
参加方法	各単位団に連絡し、参加したいコース（野球+サッカー+ 駅伝／バレーボール+バドミントン+ 駅伝）を選択

提供主体の概要

主体の種類 スポーツ少年団

所在地 愛知県江南市

設立年 1963年

団員数 約400名

主な事業

- ・ スポーツチームの運営・指導
- ・ レクリエーションの提供
- ・ 市内外のスポーツ少年団等との大会の開催・運営

③江南市スポーツ少年団(2/3)

広報イメージ

POINT

保護者がよく見るInstagramを活用し、活動報告や参加申込等のやりとりを実施

POINT

幼少期にさまざまなスポーツをすることの重要性を訴求



小学生時代にどれだけ

色々な運動・動作を経験するかで、
今後のスポーツ人生に大きく影響するそうです。

人間の一生の内でもっとも運動神経が発達する
3歳から12歳の時期のこと**ゴールデンエイジ**といわれます。
(特に10歳から12歳は成長著しい時期です)
からだの動かし方を覚える神経系は5歳までに約80%、
12歳までにほぼ100%と大人と同じになります。

～ゴールデンエイジの特徴～

- ・あらゆることを即座に習得できる。
- ・この時期にできた神経回路は一生消えない。

* 外で遊ぶ機会が減ってる為、子供の運動能力低下が
話題になっていますよね…

* 公園や広場で自由に球技ができない世の中…
小学校のグラウンドで思いっきりからだを動かしませんか？

③江南市スポーツ少年団(3/3)

工夫点

運営・体制の工夫

POINT 1 小学校施設の活用による場所の確保と利便性向上

各単位団が校区の小学校の「遊び場開放」の枠組みを活用し、活動拠点にしている。

学校施設を活用することにより、場所代が抑えられるほか、子供たちが自力で通いやすい環境づくりに寄与している。

POINT 2 保護者ボランティアが運営や指導を担当

指導や運営（会場の調整、救護等）は主に保護者がボランティアで務める。

競技の専門性にこだわりすぎず、安全管理と人柄を重視することで、柔軟に指導者を確保している。

**監督・コーチはみんなボランティア
だから本気じゃなければ
できないんです**

野球、サッカーがうまくない子供たちを
応援したいという、各チームのお父さんコーチと
卒団生のお父さんコーチによって構成されています。
(各チーム4から6人程度)
楽しく、時には厳しく指導しております。



参加促進の工夫

POINT 1 スポーツ少年団ならではのコミュニティづくり

小学校区単位での活動のため、友達同士で参加する子供が多く、そのほとんどが小学校卒業まで活動を継続する。

各学年の人数が少ないことから、学年混合のチームを組成することも多く、他学年の児童とのつながりもできている。

POINT 2 保護者の負担を減らす工夫

スポーツ用品の購入における経済的負担を減らすべく、団所有の道具の貸し出しや、卒団生が使わなくなった道具のリユースを行っている。

運営・指導では、お茶出し係をなくす、まずはスタッフという形で補助的に指導を担当するといった工夫でハードルを下げている。

【参加者の声】



小学生

（いろいろなスポーツを経験することで、中学に上がった際に）自分に合ったスポーツを選ぶことができる

子供の表情や感情が豊かになり、大人もそれを見て何度も喜びを感じられる



保護者

④大阪府豊中市(1/3)

幼児

小学校
低学年小学校
高学年

中学生以上



提供主体の概要

主体の種類 自治体

人口規模 約40万人

担当課 スポーツ振興課

- 主な事業
- ・ スポーツに係る施策の企画・調整
 - ・ スポーツ推進審議会の開催
 - ・ スポーツの振興に関する調査
 - ・ 体育施設の管理・整備
 - ・ スポーツ事業の実施
 - ・ スポーツ団体の指導育成、指導者の養成
 - ・ 武道館・体育館等の駐車場の管理 ほか

特徴

- ・ 市として子供たちのスポーツ機会の創出に重点を置いており、その一環として2023年以降、年に1回、半年程度のセット型マルチスポーツ教室を市内4会場にて開催している。
- ・ 大学4校と研究委託契約を締結し、大学教員と学生が指導や事業効果の測定を担当。
- ・ 市内の体育施設指定管理者と連携し、プールを確保することで、水泳やカヌーの体験機会も提供。

プログラムの概要

実施内容	会場ごとに日程および各回の実施種目があらかじめ定められており、1回当たり1時間・1種目を体験する。
種目	野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール、ピククルボール、水泳、カヌーなど ※会場により実施種目が異なる
対象	小学1～6年生
参加者数	約340人（2025年・4会場合計）
指導者	提携先大学の教員・学生
実施頻度・日時	会場により異なる
会場	市内の体育施設・プール
参加費	無料
参加方法	チラシ・市ホームページから申込を行う。応募者多数の場合は抽選となる。

④大阪府豊中市(2/3)

広報イメージ

POINT

マルチスポーツのメリットを前面に打ち出し、保護者の注目を引くレイアウト

豊中市主催

マルチスポーツ体験教室 参加者募集！！

**参加費
無料！**

「マルチスポーツ」とは、その名のとおり、複数のスポーツを楽しむこと

【マルチスポーツの4つメリット】

①多彩な能力を伸ばす②ケガのリスクを減らす③燃え尽き症候群を防ぐ④将来の可能性を広げる

学童期にさまざまなスポーツを経験する機会を創出し大学生やコーチからスポーツの楽しさを伝えることで青年期以降の運動部活動や生涯スポーツの参加促進につなげます！

大学生とコーチと一緒に様々なスポーツを体験しませんか？

教室は各大学の先生と学生が担当します



【協力】大阪成蹊大学
立命館大学
流通科学大学
武庫川女子大学

対象：豊中市内在住・在学の小学生・義務教育学校1年生～6年生

申込方法：2次元コードより該当施設のお申込みへおすすみください。

抽選申込期間：6月20日（金）～7月13日（日）

抽選申込結果：7月18日（金）（※全8回の教室です。）

◇持ち物：運動しやすい服装、室内シューズ、タオル、水分補給できるお飲み物

（〔水泳〕持ち物：水着、バスタオル、水分補給できるお飲み物）



POINT

「体験」という位置づけにすることで、参加のハードルを下げる

今年も大学生と一緒に様々なスポーツを体験しませんか？
運動が苦手な子ども、スポーツの習い事をしていない子ども大歓迎です！！

**参加費
無料！**

立命館大学

開催施設	開催日	種目	低学年（小学1年～3年生）	高学年（小学4年～6年生）	定員	QRコード
豊島体育館	8月9日（土）	バスケットボール	9:00～10:00		低学年 25名	お申込みはこちら
	8月23日（土）	バレーボール				
	9月13日（土）	フットサル				
	10月11日（土）	バトン&ダンス				
	11月15日（土）	野球				
豊島温水プール	12月13日（土）	水泳	14:00～15:00			
	12月20日（土）					
豊島体育館	2月14日（土）	フラッグフットボール	9:00～10:00			

POINT

各回の実施種目をあらかじめ開示することで安心感とワクワク感を高める

流通科学大学

開催施設	開催日	種目	低学年 (小学1年～3年生)	高学年 (小学4年～6年生)	定員	QRコード
庄内体育館	8月2日 (土)	サッカー	9:30～10:30	10:40～11:40	低学年 25名	お申込み こちら 
	8月3日 (日)	ふうせんバレーボール				
	8月4日 (月)	野球	13:30～14:30	14:40～15:40		
	8月9日 (土)	スナックゴルフ				
	8月10日 (日)	バスケットボール	9:30～10:30	10:40～11:40		
	8月11日 (月)	バドミントン				
豊島温水プール	12月7日 (日)	水泳	13:00～14:00	14:00～15:00	高学年 25名	
	12月14日 (日)					

④大阪府豊中市(3/3)

工夫点

運営・体制の工夫

POINT 1 市のスポーツ施策に位置付け、庁内調整を円滑化

子供のスポーツ機会創出の打ち手として、マルチスポーツをスポーツ推進計画に盛り込んだ。その結果、庁内の調整がスムーズになり、継続的にマルチスポーツ教室を開催できている。

運営事務局を市長部局に移管したことにより、自由度の高い運営が可能となった。

POINT 2 市内の大学と連携し、指導者の確保と効果分析を実現

市内の大学4校と連携することにより、大きく以下2点のメリットを受けている。

- ①子供の前向きさや協調性の向上などの事業効果をアンケートで客観的に測定し、予算確保のためのエビデンスを得られている。
- ②指導役として熱意のある学生を確保できる。



参加促進の工夫

POINT 1 教育委員会を通じて集客効果を最大化

広報においては市の広報誌等も利用したが、最も効果があったのは教育委員会を通じた広報であった。

教育委員会が提供するアプリや、小学校を通じて配布したチラシからの申し込みが最も多かった。

POINT 2 毎年プログラムを入れ替え、新しい挑戦を促す

毎年プログラムを見直し、ニュースポーツやサーキットトレーニング等、新しい要素を取り入れている。参加者の中にはリピーターも多い。

2025年度には、会場としてプールを確保したことで、水泳やカヌーにも挑戦できている。

【参加者の声】



小学生

いろんな種目が体験できて楽しかった

たくさんのスポーツに触れることで、体を動かすことの楽しさを感じてほしい



提携先の大学教員

⑤新潟県佐渡市(1/3)

幼児

小学校
低学年小学校
高学年

中学生以上



提供主体の概要

主体の種類 自治体

人口規模 約5万人

担当課 教育委員会社会教育課

主な事業

- 生涯学習支援
- 部活動の地域展開

特徴

- ・ 休日部活動の地域移行に当たり、平日の部活と同じ種目を地域指導者に教わる「スキップ型」に加え、毎回異なる種目を選択できる「エンジョイ型」を導入し、多様な体験機会を創出している
- ・ 市教育委員会が主体となり、スポーツコーディネーター、文化コーディネーターを配置することで、スポーツ協会や地域指導者と連携し、スポーツ18種目・文化芸術21種目と幅広い選択肢を実現

プログラムの概要

実施内容	会場ごとに日程および各回の実施種目があらかじめ定められており、1回あたり3時間・1種目を体験する
種目	スポーツ18種目（野球、サッカー、陸上競技、ゴルフ、ボウリング、スキー他） 文化芸術21種目（吹奏楽、競技かるた、人形芝居、茶道、クッキング他）
対象	小学5、6年生、中学生
定員	定員の設定なし
指導者	スポーツ協会員、SEA（スポーツ国際交流員）、地域住民等
実施頻度・日時	週末・月3回
会場	市内の社会体育施設・公民館・学校施設等
参加費	スキップ型 年5,000円 エンジョイ型 1回500円（10回以上は一律5,000円）
参加方法	学校経由で申込／チラシに掲載のQRコードから申込

⑤新潟県佐渡市(2/3)

広報イメージ

佐渡市地域クラブ活動たより

令和7年9月8日発行 第5号 佐渡市教育委員会 社会教育課

今年度から小学5・6年生も参加しています

佐渡市地域クラブ活動では、今年度からエンジョイ型種目で小学5・6年生の募集も始めています。エンジョイ型の参加者は、中学生よりも多く56名となっています。(7月16日現在) やってみたいという想いは中学生と同じで熱心に活動しています。異年齢交流の幅も広がり、種目の活動を楽しむとともに人との触れ合いから貴重な体験をしている様子が見られます。今回は、小学生も参加している種目(サッカー、クッキング、佐渡探究)と伝統芸能の魅力として鬼太鼓、指導者の想いとして空手を紹介します。



〇中学生と仲良くできて楽しかったです。(児童)

サッカー



クッキング

佐渡探究

〇佐渡の植物について詳しく調べて子どもも夢中になって聞いていて楽しそうでした。石鹸作りも初めてやったので人数は少なくてもみんなでワイワイ話しながら作っていたので良かったです。(保護者)

〇小学生と中学生と一緒に郷土料理の煮しめを作ることができて、地域の子とも交流を深めることが出来た。料理をしたことがある子どもも、無い子どもも佐渡の郷土料理について知ることが出来る良い経験になったと思った。(指導者)

POINT

多様な種目の写真及び参加者・指導者の感想を掲載し、現場の風景をわかりやすく伝える

POINT

指導者の生の声を多数掲載することで、参加者・保護者の安心感の醸成と、潜在的な指導者層の共感を生む

POINT

道具のリユースを呼びかけ、誰もが参加しやすい持続可能な運営基盤づくりを促進

鬼太鼓の指導者の方に聞きました

Q1 鬼太鼓の魅力は？

一般的に鬼は悪役のイメージがありますが、佐渡の鬼は悪(やく・悪いこと)を追い払うヒーロー的存在です。太鼓のリズムに合わせ、神の化身となり踊る姿は勇壮かつ幻想的なのが魅力です。また、裏打、獅子、担ぎ手、提灯持ちなど、それぞれの役割の中で一緒に盛り上げている鬼太鼓はその地域の歴史と文化そしてパワーを表現しています。

Q2 鬼太鼓を続けてきた想いは？

実は長木の鬼太鼓は若い踊り手がなくなり、過去2回も休止の時期がありました。地元の祭りが無くなると寂しさを感じます。子どもたちにふるさとの祭り、ここに住んで良かったと感じる魅力のある地域作りの為、鬼太鼓を残すことが大切だと思います。保存会を発足し21年になる長木鬼太鼓には復活した太鼓の響きを感じられます。

Q3 鬼太鼓を通して小中学生に伝えたいこと？

佐渡には鬼太鼓をはじめ、佐渡おけさや能など昔からの芸能がたくさんあります。佐渡の歴史や文化の魅力を学びながら、地域や人々との関わり合いを深めてほしいです。この機会にふるさとの祭りに参加し、将来は地元の鬼太鼓(ヒーロー)を演じて欲しいと思います。

〇初めての動きを練習したので戸惑いながらも、子どもたちががんばっている姿を見ることが出来てうれしかったです。(指導者)
〇空手を少しでも知ってもらえればと思って指導しましたが、人に教えるのは難しいと思いました。(指導者)



空手

随時道具のリユースを募集しています!!

グローブ、バット(野球)、ラケット(ソフトテニス、バドミントン、卓球)、各種楽器(吹奏楽、ギター) などご協力いただける道具(使用可能)があれば地区公民館にお持ちください。

随時参加者を募集しています!!

新たな参加希望や活動種目・場所の変更については、20日程度の期間があれば参加可能です。詳しくは、教育委員会 社会教育課までお気軽にお問い合わせください。

(Tel. 58-7356 FAX 58-7357 E-mail shakyo@city.sado.niigata.jp)

中学生用申込



小学生用申込



⑤新潟県佐渡市(3/3)

工夫点

運営・体制の工夫

POINT 1 地域の人材・施設のフル活用

スポーツ協会だけでなく、公民館で活動する地域住民やスポーツ国際交流員（SEA）など、多様な人材を指導者として登用。指導者には「安全管理マニュアル」を配布して意識統一を図ることで、質と安全性を担保している

活動場所としては、学校施設や地域の文化・スポーツ施設等を活用。マリンスポーツ等、一部種目では佐渡市の豊かな自然環境を活かしている

POINT 2 専任コーディネーターの配置による円滑な運営

市教育委員会（学校教育課・社会教育課）が連携して運営主体となり、専任のコーディネーターを配置。会場予約や指導者調整を一元化することで、学校や指導者の負担を軽減しつつ、円滑な運営を実現している



参加促進の工夫

POINT 1 「学校間格差」の解消

生徒数減少により学校単位では維持困難な種目も、地域単位で実施することで存続。「やりたい部活がない」という課題を解消することで、学校間での体験機会の格差を是正

児童・生徒にとっては、他校の生徒と交流できることも楽しみのひとつとなっている

POINT 2 ニュースポーツ・文化芸術を含めた多様な種目を提供

陸上競技・サッカー・野球といったメジャーなスポーツのほか、ボッチャ等のニュースポーツや、マリンスポーツ・スキーなど中学校部活動としては珍しい種目も展開し、多様な体験機会を提供

文化芸術としては、能楽・民謡等の伝統芸能から、プログラミング等の現代的な技能まで、幅広く開講

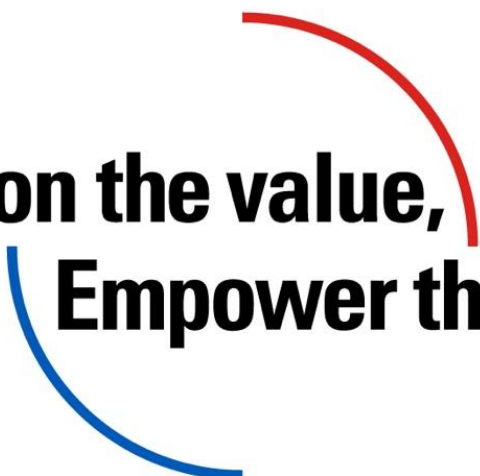
【参加者等の声】



たくさんの人と関わることができて楽しかったです（生徒）

貴重な機会を作っていただき感謝している。今後もいろいろな種目を体験させたい（保護者）





**Envision the value,
Empower the change**